

# 八清親和会 自治会役員の一とり言

令和3年6月4日

No30

八清親和会 副会長

吉田祐治

## 八清親和会「6年の自治会改善・改革“自治会活動の再活性化”」 取り組みのきっかけと、何故ここまで出来たか！

“本当に、貴方の自治会を何とかしたいと思うのなら、あなたでもできる、自治会の改善・改革！”  
副題：上部団体を頼らなくても、支援がなくても、単一自治会が、独自でここまでできる。

自称、八清親和会の改善・改革の旗振り役として6年間を振り返って、すでに掲載した「八清親和会 6年間の改善・改革活動ダイジェスト」の背景資料として投稿します。

### 信念を貫き、絶対変えるという、小さな行動の一步から始まった今の成果、結果！

8年前（平成25年）副会長を引き受けることになったのは、小さな改善がきっかけである。まず、役員として目にしたことは、どこの自治会でも問題となっていて、なかなか解決していない、

- ◇加入世帯数の減少
- ◇三役の高齢化
- ◇活動の担い手不足
- ◇行事・活動のマンネリ化、参加者の減少

の問題であり、八清親和会も他の自治会同様抱えていた。まず実施されていたのは、4年前の平成21年に三役の若返り化が行われ、改善途上であったが思うように進んでいなかった。

私の分析では、当時進んでいなかった主な事由は大きく4つの問題点であった。

- ◇会長・副会長3人の若返りを行ったが、4人中3人が50～60歳代前半のため、会社勤め、自営業の現役により、自治会業務に専念できない。
- ◇PCが使えない、あるいは十分使い熟せないため、旧態依然のやり方（アナログ方式）でお知らせ・連絡文書・資料作成、ペーパーによる分散保管等で、必要な書類が出てこない、あるいは無い。
- ◇情報が常任委員までしか伝わらず、又は止まっているため、末端の会員への周知・情報発信が十分できていない。
- ◇根底にボランティアという理由で責任を伴う、煩わしい問題に取り組みたくない、関わりたくない。
- ◇どのようにすれば良いか、取り組んだらよいか、アイデアもない、パワーもない。

このような状況の中で、会長、副会長改選期に伴い、自治会に専念できる、PC習熟者として自治会業務に関わることになった。

そして、自治会内の「八清親和会の再活性化」に取り組んだ主な動機は、

- 平成25年4月に、前年の平成24年度期末に18名と多くの退会者が出たことに驚いた。
- この退会者の増加に対し、会計は会費が減ることに危機感を持っていたが、役員会は具体的な対策への動きが全く鈍かった。
- 会員が集まると「常任委員・組長になると業務が多く。また、行事・活動の度お手伝いの担当割当があり、忙しく負担が掛かり大変だ、やりたくない」等、過去の体験からによる先入観が強く、ことあるごとに聞かされた。
- 年度末の輪番役員（常任委員・組長）人選時に、これらの理由による役員辞退あるいは、退会者が増えていた。
- 相変わらず、自治会業務・事務処理が旧態依然の手法や処理で非効率、やっていることがあまりにもIT・デジタル時代とかけ離れていることに驚いた。

これらの問題と、現実を目のあたりにして危機感を感じ、問題をこのまま放置すれば、会員が年々減少することに歯止めが掛からず、また役員の担い手がさらになくなり、八清親和会は衰退していくのではないかと思い、いろいろ提案するも、はじめは無視されるか、何ならばやってみたらどうかの傍観スタンスであった。

それならば「言って（言葉で説明）もダメ、書いて（文書にして）もダメ、最後に『やって見せるしかない』」の発想で、サラリーマン時代の経験・スキル・知識を活かし、一人でできることから始めたのが改善・改革の第一歩である。

孤独のスタートであったが、まず始めたことは、1ヶ年掛け徹底的に自治会が抱える問題・課題の調査、把握、分析を行った。特に力を入れたのは、何故できないかの分析である。

無論、パフォーマンスや表面的、形式的な作業・行動は排除し、核心にも触れ、三役の耳の痛い内容も含めた自治会としての、八清親和会全般（目的・基本活動・活動内容計画・組織・体制・運営・規約等の有無、明確・不明瞭、記録の有無）と、三役・役員や会員に起因、あるいは関係する直近・潜在的問題、課題に分け、すべてを抽出、把握、分析しまとめた。

この結果を基に、解決のための取り組みポイントと、優先順位・基本計画を立てた。

そして、この改善・改革にもう一つ必要だったことは、

会員への行事・活動等のお知らせや連絡文書が、相も変わらず役所と同じような事務的、形式的な文面であり、会員がこれらの文書やお知らせを読んで、行事・活動に参加して見ようと言う、関心・意欲が生まれるか疑問に思ったことである。

このような、行政団体的な形式を重んずる旧態依然な手法や進め方から脱却し、「会長・役員の考え、目的、思いが会員に伝わる文面や、民間企業のような自由、柔軟な発想・行動・知恵等を取り入れ、IT・デジタル時代に即した感性を取り込む、即ち『自治会風土を変えるための、民の力や考えを取り込めば取り込むほど、自治会は変わり活性化する』」を念頭に「民間企業で培った経験とスキル、知識（考え方・運営・組織・体制・取り組み方・仕組み）を駆使し、自治会を変える」という信念を持ち、以下の手法を取り入れ改善・改革を行った。

主な手法は、◇ トヨタの「改善提案」  
◇ 「間接VE（バリューエンジニアリング）」  
◇ 「企業風土改善」  
◇ 「PDCAサイクル」  
◇ 「ABC行動」

である。

次に、1年を費やした八清親和会が抱えている問題、課題の分析結果を、解決のための取り組み項目として、8項目に集約し達成迄4ヶ年（2期）の期間を見積もった。また、この達成成果を改善・改革到達目標にもした。

問題・課題の集約8項目

1. 三役・輪番役員負担軽減
2. 輪番役員高齢者等免除制度（含む区・組の統合、組の区替え）導入
3. 本部委員組織新設
4. イベント・サポート・スタッフ組織新設
5. 行事の参加者拡大
6. 八清親和会案内作成
7. 八清親和会会報発行(月刊)
8. 自治会紹介ブログ投稿（八清親和会ホームページ開設）

最初は、できるものから優先順位を付け、一つ一つ整理し、見える形にして、また経験や知識のないところは、関連書籍を読んだり、都内で開催された町会・自治会に関する講習会や講演会にも参加し、昭島市以外他市の市役所や成功事例や、取り組み中自治会の所在地にも行き、調査し良いところできるものを取り込み改善・改革作業や活動を行っていった。

上記に集約された8項目は、皆さんがこれを見て多分思われることは、画期的な、難しい項目などないということである。どこの自治会でも、やる気になれば考えられ、取り組める内容である。

しかし、このなかで一番大変だった改善・改革は、高齢化問題の「輪番役員高齢者等免除制度（含む区・組の統合、組の区替え）導入」だった。これに正面から取り組んだため、この項目だけで約1ケ年を費やし、当初の達成目標計画4ケ年が、6ケ年になった。

今振り返れば、この項目が成功するか否かが、6年間取り組んできた改善・改革の天王山であったと言える。なぜならば他の項目にもリンクしているため、同時に解決していったからである。

この1年間は、正に一点集中の全力投入の取り組みであった。

改善・改革スタート時、この高齢化問題は早期に取り掛かる必要があると思われたが、課題が大きすぎ、どのように取り組んだらよいか筆者も全く解からず、他市の自治会の取り組みを調査・勉強し、その結果などを参考にし、八清親和会としての取り組みを検討・まとめることを頭に描いていた。

当時2ケ年掛けて調査した「高齢化問題の解決の取り組みに備えた調査結果」は、

1. 他の市町村や同自治連においても、問題意識を持って実態調査など 問題提起を行っているが、いずれも参考になる解決策までに至ったところはなかった。
2. 原因は、
  - ・ 解決策がいずれも、実際に経験した実例でないため、具体策までに踏み込んでおらず、教科書的であり、実現や成功していない。
  - ・ 役員免除対象者が決められても、実際に役員を担う対象会員に対する仕組みや、負担軽減策が検討されていない、または手が付けられていないため、輪番が速くなったなどの新たな問題が生じていた。（他府県市町村実例）

一方、八清親和会に於いても、年々問題が深刻化して高齢化問題解決に、早期に取り組むことを迫られた。

1. 平成28年3月、次期（28年度）常任委員の選出で、高齢化などの理由により昨年同様、辞退者が多く出てきた。
2. 退会あるいは、一部お隣同士が役員を受ける、受けないの、険悪な状態になりかねない処までに発展していた。
3. 役員辞退理由による退会者に対し、現状引留め策がなかったため、無力感の思いで退会届を受理するしかなかった。
4. これらの地区は、会長・副会長（筆者）が人選に介入し、直接のお願い等で何とか選出できたが、会員同士による調整選出はもはや限界に来ていた。
5. 来年、平成29年度の常任委員人選に同じことを繰り返さないためにも、28年度で高齢者の常任委員辞退問題を解決し、この問題を断ち切る必要性に迫られた。

そして取り組みのポイントとして掲げたのは、

1. 八清親和会としての、「高齢者やいろいろな事情を抱えた会員世帯について」の役員免除（常任委員）基準を設ける。
2. 上記を除いた役員輪番対象世帯への輪番負担軽減の仕組みを作る。
3. これらを八清親和会の規約に制定し、詳細を運用基準で定める。
4. 平成29年度の新常任委員選出は、この新しい基準・仕組みで選出する。
5. 4月9日の定期総会で、「平成28年度最優先課題の取り組みについてのお願い」と称し、取り組み宣言をし、自身の退路を断った。
6. 検討案は筆者の私案をタタキ台にし、役員会案をまとめ、検討をスタートさせた。

当時上記1～4項は、掲げはしたが我ながら理想に近く達成できる確信はなかったが、ここまで掲げないと当時の常任委員は納得しなかった。

また、自治会創立以来手を付けてこなかった常任委員区統合による、常任委員現状の15名を8名（約5割弱）に削減することや、組の統合による組長削減など当時無謀と思われた内容の改革も対象にした。

このため、ある会員からジョークで「殿ご乱心あそばされたか！」と言われたほどであった。この改革に要した期間は約1年、正確には3月の臨時総会の招集、承認まで含め11ヶ月を費やして「輪番役員高齢者等免除制度」を正式に導入した。

これが大きな転機となり、会員の自治会や役員に対する見る目が変わり、他の改善・改革も含め、八清親和会が変わってきたと、直接耳にするようになった。

今や、これら6年間改善・改革してきた内容は、八清親和会として会員に「珍しいものではなく、当りまえとして」まで定着してきている。

しかし、まだまだ手つかずのものや、本格的に取り組まなければならない項目があり、漸く「本来の自治会の土台作り」が終え、新たな始まりと思っている。

この6年間の改善・改革を土台にしてこれからも止まることなく、改善・改革を進め、目指すは、  
**「自治会が、さらに4年後どれだけ成長したか、変わったかである」**

**最後に、何故八清親和会が出来て、他自治会ができないのか！に触れてみたい。**

あくまでも筆者の私見にため、反論があるかと思うが、はっきり言うと考えられる主な要因は4点、

1. まず、自治連などのワークショップで自治会長から出される自治会が抱える問題・課題は筆者の体験から提起内容が抽象的であり、1年で解決できるものなどほとんどない。本格的に取り組むならば、原因分析から定着まで1項目最低2～4ケ年は掛かる。
2. したがって、会長を含めた三役が、1ケ年～2ケ年で交替している、あるいは輪番や受ける人がいないから仕方なしの理由等で就任している役員自治会は、改善・改革はできない。
  - ・何故ならば、1年の内実質活動期間は僅か6～7ヶ月ほど。総会が終わり活動開始5月～来年1月には、次期役員人選等で、改善・改革活動は事実上停止するからである。
  - 改善・改革を行うならば、12ヶ月間フルに改善・改革活動できる仕組みにすること。
  - ・短期間就任は、就任して日々の活動に追われ、漸く内情が分かってくる所で1年が終わり交替してしまうのが通常パターン。このパターンを変えないと改善・改革はできない。
3. 改善・改革の旗振り役は誰か、司令塔は誰か。また、口先ばかりの行動が伴わない評論家は要らない。チームや委員会を設置しても、机上の議論に時間ばかり割いて、何も決まらない、行動や作業が進まない、目に見える進展や成果が確認できないチームや委員会は不要。
4. 有名な童話「ウサギとカメ」に例えた活動ができなければ、改善・改革はできない。

筆者が言いたいのは“どうしてウサギはカメに負けたのか。カメはウサギに勝ったのか。ウサギは油断して昼寝をしてしまった。カメはコツコツと歩を進めて、ウサギを追い抜いてしまったからである。即ち、改善・改革もウサギのように目先の活動や一過性の活動、パフォーマンス的な活動ばかりを行いこれが改善・改革だと思っていると、カメのように一歩一歩地道に、しっかりと地についた小さな改善・改革を積み重ね前に進んだ方が、やがて問題・課題解決の大きな成果や結果になり、目的・目標に到達することになるが、ウサギは気が付いたら古事のことわざにある”糠（ぬか）に釘“で、何も進歩せず、毎年同じことばかりを繰り返しているだけであると言う例えです。

**皆さんの自治会は、この3ヶ年間で抱えている問題・課題が解決し、自治会が変わりましたか！もう一度、年々衰退・消滅していく自治会をどうしたら再起できるか真剣に考えてみませんか！**

八清親和会 6年間の改善・改革活動ダイジェスト  
(平成26年度～令和1年度)  
活動副題:自治会の再活性化  
自治会(八清親和会)が抱えている  
問題・課題の解決活動総括

この投稿「八清親和会 6年間の改善・改革活動ダイジェスト(平成26年度～令和1年度)副題:自治会の再活性化 自治会(八清親和会)が抱えている問題・課題解決活動総括)

の詳細は、八清親和会の「基本活動」として掲載している、独立ページ「0. 改善・改革活動(新しい自治会へ)」をご覧ください。入り方は、

八清親和会トップページ上メニュー「最新情報」を開き、右サイド「カテゴリー」の「お知らせ」を開いて  
以上